NIGHT CHILD
Now, he is in rusty gold. It's the memory of her, it's the lost past

あれから
ひと月ほど
ん…
レン…いいよ…
随分上手くなってる
はぁ
そう…
そこのくびれた所を
そうん…ッ
で…ッ
レンは毎夜毎夜
遠野志貴を訪れる

遠野志貴は今日も
レンと交わっている
ニコ
さぁ今度は
レンの番だよ…
――スカートを
自分で
持ち上げてごらん
オオオオオ
ズッ

ピク
レン―舐めていただけでもうぐちゅぐちゅになっているよ?
おしおき―してあげないとね
何かが間違っている―そんな気がしてならない
何が?
ぼんやりとした意識がぐるぐると回り続ける
わからない ワカラナイ

おっと…
もう立ってられなくなっちゃった?
じゃあこっちにおいで……
わからないままただ、ただ、レンと交わり続ける……
ほら…自分で入れてごらん

―まだ少し入っただけだよ？
―確かなのは甘く痺れていく感覚そのもの
…手伝うよ
ほら―奥までゆっくり入っていく―
もっと――もっとレンをナかせたい
―――そんな衝動だけ
ほら・やっと奥まで入ったよ
―次は

ちゃんと
動かないとね？
複鞘のままに
レンを串刺しにする
何か 奇妙に
歪んでいる？
——どうして？
——何が？
んッ
んッ

…様こそぎペニスから
奪われテいく様ナ感覚
…もウ止めラれナイ
レン…
先にひとりで
イっちゃったの？
でも
僕はまた
イってないからね
!?

遠野志貴ガ
ほ
求メル
貪ル
混ジル
ふ
繋ガル
れんガ
穿ツ
ズププププ

唾液
月ノ先
粘液
汗
繰り返ス
涙
甘露
愛液
帰ケル
泣キ
喘ギ
吐息

チュプ
ちょ　レン――
ズズー
何も　そこま――で――？
――あ　そうか――
――これは――いつも――の
にゃり

ひび割れたいつもの世界の景色
遠野志貴の現実
そして
ぼんやりとした罪悪感

レンにとって夢はもう一つの現実
一途に
受け入れるレンは
ああ　もうすぐ
朝か
ゴロ
ゴロ
――こんなにも
レン　おいで

いいものを
見せてあげる
ア
ア
ア
ア

―空と地の間が白んで
色の空がゆっくりと朱に染まる
―月が去っていく
ア
ア
ア
ア
やっぱりレンの方が身軽だな
がたっ
―朝が来る

……
——ああ綺麗だ
——どうしても一人になりたいときにここに来るんだよ
—屋敷に来て色々あってそれこそこんな屋敷なんて燃えてしまえばいい—
——・なんてよく思ったものだけど
ザワ
ザワ
ザワ
ザワ

この屋敷のここからの景色だけは綺麗だと思うから
もっともそんな事言ってたら秋葉に怒られてしまいそうだけどね
って
レン———？
その 姿は———

――遥か地平線まで続く
錆びた黄金色の草原
それは見渡す限り
一面燃え盛る炎のよう
ざ
――レン
これは――
――これは死んでしまった
過去の景色
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
——レンの記憶
あ
消えてしまった魔術陣と
レンの——
——ああ…そうか…

レンが何を求めていたのか
レンが何を畏れていたのか
もう一度喪うことの不安
レンはただ遠野志貴と
共にあることだけを望んでいた
ただ　それだけ
どうしようもなく
それだけ
遠野志貴の罪は
淫夢に溺れることではなく
その願いを
理解しなかった愚かしさゆえ
それはなんて一途で
重い願いだろうか
何て…
―愚かな――
――レン
いつか地平線を見に行こう

地平線の向こうまで続く
黄金色の草原をいつか…
この孤独だった
小さな命に
さてそろそろ
下に降りないと
チーグ
より多くの
幸あれ
END

NIGHT CHILD
Now, he is in rusty gold. It's the memory of her, it's the lost part.
Beastics Presents.